保護者の皆さまへ

鹿大だより

第26号

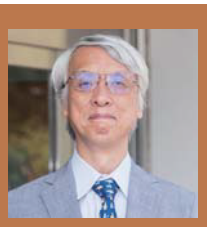
KAGOSHIMA UNIVERSITY

◎編集・発行／国立大学法人 鹿児島大学広報センター
〒890-8580　鹿児島市郡元1丁目21番24号　TEL099-285-7035　FAX099-285-3854　E-mail: sbunsho@kuas.kagoshima-u.ac.jp

北辰通り（郡元キャンパス）

始動！キャリア形成支援センター

今年4月、就職支援センターを改組し、新たに設置された「キャリア形成支援センター」。センター設置の経緯や本学の就職・キャリア支援、最近の就職・採用活動の動向について、枚田 邦宏センター長にお話を伺いました。


キャリア形成支援センター長
枚田 邦宏 教授

2016年から就職支援センター長、2020年からキャリア形成支援センター長。農学部教授。専門は森林経済学、森林政策学。

センター設置の意義 ー高まるインターンシップの重要性ー

インターンシップ（就業体験）の定着により、近年、就職活動が大きく様変わりしています。かつては一部の学生のみが参加していたインターンシップですが、早期に学生と接触できる機会として企業が重視するようになるにつれ、今や学生にとって就職活動に重要なものとなり（※1）、同時にエントリーシートの作成を含め、インターンシップに参加するための準備も必要となりました。就職に向けた企業研究の前に、どのような業界・企業のインターンシップに参加するか検討し、そのために自身の適性や能力を把握する必要が出てきているのです。

そこで本学では、単に就職活動のための知識・能力を養成するだけではなく、学生が将来に向けて長期的にキャリアを形成していくために必要な能力を修得できるよう、より早期の段階、すなわち入学時から長いスパンでの体系的なキャリア教育や支援を行うべく、新たにセンターを設置しました。

（※1）大学3年生を対象とした大手就職情報会社の調査では、6月までに8割の学生がインターンシップに応募したことが分かっている。

センターの概要と業務 ー3本柱を中心にー

キャリア形成支援センターでは**①キャリア教育、②キャリア・就職支援、③インターンシップ**の3つを中心に学生を幅広く支援していきます。

①キャリア教育

全学的なキャリア教育として、1・2年生向けの「キャリアデザイン（共通教育科目）」を開講。外部講師を含む多彩なゲストスピーカーによる講話で、早期からキャリア意識を高めてもらうことを目的の一つとしています。また地域人材育成プラットフォームの「かごしまキャリア教育プログラム」や各学部・研究科に科目を提供し、専任教員によるキャリア教育を実施します。

②キャリア・就職支援

年間を通じて企業説明会やセミナーを実施。また、年6回の就職ガイダンスや少人数の実践的な支援講座等、学部3年生（院1年生）を対象としたイベントの他、業界・職種研究セミナーなど、低学年の学生も参加できるイベントも多数企画・実施します。今年は初の試みとして12月と1月に「Web業界・企業フェア」をオンラインにて開催します。県内外の企業・官公庁150社前後が参加予定で、LIVE配信に加え、動画は一定期間視聴可能。1・2年生の皆さんにも、就職やキャリアに対するイメージを膨らませる機会にするため、ぜひ参加してもらえればと思います。

③インターンシップ

学内外の受付・相談窓口となり、学生のインターンシップ参加をきめ細やかに支援します。学生が個人でインターンシップに申込む場合もありますが、センターでは事前指導から事後のフォローまで行い、安心して参加できる体制を整えています。

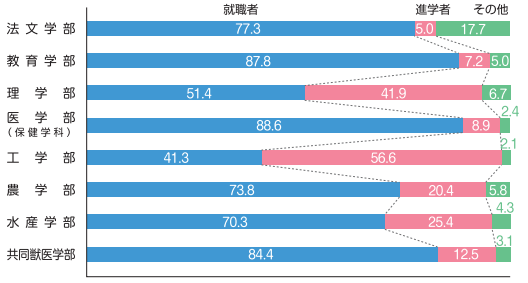
これからの就職活動に向けて

さて、コロナ禍における就職を心配している保護者・学生の皆様も多いでしょう。2021年度卒（現4年生）の学生に対する求人倍率は1・53倍で、昨年の1・83倍と比べやや低いものの、新卒雇用は一定水準維持されているといえます。ただし業種によっては景気が落ち込んでいますので（例：サービス・運輸業等）、業界・企業研究、情報収集に努めていただくとともに、当センターの就職相談も活用してください。専門の相談員とハローワークのジョブサポーターが皆さんの悩みを聞き、アドバイスします。

また本学には、毎年秋以降も地元の優良企業を中心に、鹿大生を採用したいという求人が多数届きます。来春卒業予定の学生は、センターや各学部の求人情報にも目を向けてください。なお、センターで求職登録すると（センターHPからWEB登録も可能）、希望に近い求人情報がメールで届きますので、ぜひ登録をおすすめします。

●令和元年度学部卒業者の就職・進路状況

（令和2年5月1日現在）



●令和元年度学部卒業者の学部別・産業分類別就職状況

（令和2年5月1日現在）（単位：人）

	法文学部	教育学部	理学部	医学部（保健学科）	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	合計
建設・製造	15	3	16	-	81	43	32	3	193
情報通信	30	9	16	-	36	15	5	-	111
卸・小売	37	15	7	-	1	14	24	1	99
金融・保険	45	7	4	-	1	2	3	2	64
医療・福祉	7	4	1	96	-	1	2	-	111
教育・学習	4	13	5	-	1	1	5	2	31
サービス	25	20	18	-	25	12	8	12	120
公務員	78	31	13	11	23	44	8	7	215
教員	6	131	5	-	-	2	1	-	145
その他	49	12	7	2	8	18	9	-	105
合計	296	245	92	109	176	152	97	27	1,194

キャリア形成支援センターHP
URL：https://www.kagoshima-u.ac.jp/job/
求職登録はこちらから。説明会やセミナーのお知らせ、就職データ等もご覧いただけます

専任教員のご紹介

キャリア形成支援センター
藤村 一郎 准教授

私は就職氷河期（ロスジェネ）の第一世代で、振り返れば、それまでの世代とは全く異なるキャリア、言うなれば焼け野原を歩んできたように思えます。専門の政治学をしながら、非常勤講師など様々なバイトで食いつなぎ、中国では日本語教師としても働きました。コロナ禍を見ると私たちの時代を思い出します。不況は資本主義にはつきものです。転んでも起きあがり続ける鹿大出身者を一人でも多く輩出できるよう尽くしたいと思っています。

◎内定者インタビュー

徳本 龍一さん　理学部 物理科学科4年

●大手電気機器メーカー内定

【就職活動DATA】志望業界：メーカー、インフラ、航空等／エントリーシート提出：25社
インターンシップ：10社／面接：4社／内定：1社／就活費用：約20万円

就活開始は2年生の2月頃です。早い方だと思います。就活に危機感を抱かせるような動画をインターネットで見て、思わず「マイナビ」に登録しました。その後まず「学内業界研究フェア」へ行き、それから3年生の間に約10社の短期インターンシップや20回以上の説明会（オンライン含む）に参加しました。

4年生になると周りでは内定を取る人が増え、焦ることもありましたが、両親に話を聞いてもらうことで気持ちが軽くなりました。誰かと話をするというのは大切ですね。

そんな中、大学の推薦を受けて応募する学校推薦の求人があることを知りました。偶然私の志望業界であったため、すぐに応募し、学内選考、オンライン面接を経て内定をいただくことができました。このようなチャンスがあるので、外部の就職サイトだけではなく学内の求人にも目を向けると良いと思います。

私は自己分析にかなり力を入れました。自分のこれまでの学習や経験等を言語化し、相手に説明できるように準備するのはとても大事ですし、自分の適性や志望を見極める材料にもなりますので、まずはしっかりとした自己分析から始めることをおすすめします。

徳本さんの自己分析の一部。「私の基本的な特徴」「私の持ち味」等細かく記している。書き出すことで自分の長所や短所にじっくり向き合うことができるとのこと。

COLUMN

インターンシップ窓口がオープン！

４月１日のキャリア形成支援センターの新設に併せ、共通教育棟１号館１階にインターンシップ窓口がオープンしました。

新たに専門スタッフが配置され、学年を問わず、全学の学生へのインターンシップ情報の提供や、「かごしま課題解決型インターンシップ」を始めとする、大学を通して申し込むインターンシップの問合せや受付対応のほか、インターンシップに関する相談やアドバイスも行います。インターンシップ情報の探し方や参加する上での心構え、知っておきたいマナー、参加後にすべきことなど、わからないことがあれば是非気軽に窓口を訪ねていただければと思います。

キャリア形成支援センター インターンシップ窓口
場所：郡元キャンパス 共通教育棟1号館1階
開室時間：平日8:30～17:15（祝日、年末年始とお盆期間を除く）

グローカル教育研究拠点を目指して

鹿児島大学の地域人材育成

―地域人材育成プラットフォーム―

2017年にスタートし、昨年初めての修了生が誕生した「地域人材育成プラットフォーム」。地域人材育成プラットフォームの運営や学生指導に携わる大前 慶和教授に、これまでの歩みと今後について伺いました。

地域人材育成プラットフォーム担当 学長補佐
大前 慶和 教授

地域人材育成プラットフォームとはどのようなものでしょうか

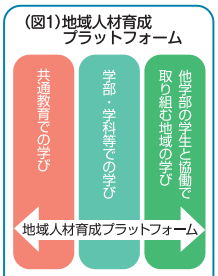
各学部での深い学びを「縦の学び」とすると、地域人材育成プラットフォーム（以下、プラットフォーム）の広い学びは「横の学び」といえます。プラットフォームは、**学生に「横の学び」の場を提供する、総合大学ならではの仕組み**です。本学には9つの学部があり、それぞれが幅広い「知」を有しています。学生がどの学部に入学しても、それらの知に触れられるよう、3つのプログラムを用意し、学部の垣根を超えた学びを支援します（図1）。

2017年の開始以来、初年度155名、次年度115名、3年目となる2019年度は450名がスタートアップ科目（スタートとなる科目）を受講しました。その後、学生がより深く学びたいと考えれば次のステップへと進みます。そして昨年、約2年をかけて座学や実地体験を含む20単位を修得した初の修了生が9名誕生しました。彼らを見ていると、受講を開始した当初より、行動力や意欲といった能力が格段に上がったように感じました。課題を見つけ、発言し、行動し、時にユニークな発想で解決方法を考える…これこそ、地域人材と言えるでしょう。

今後、地域人材育成プラットフォームをどのようにしていきたいとお考えですか

学部教育とプラットフォームの相乗効果を期待していますので、ぜひたくさんの学生に挑戦してもらいたいですね。「横の学び」を用意している大学は多くはありませんので、プラットフォームを受けて当たり前というようになると、本学の学生は違うぞと言ってもらえるのではないでしょうか。なお2020年度から、各プログラムを「基礎編」と「実践編」に分け、「基礎編」だけでも受講可能とした他、修了単位も16単位とし、受講しやすくしました。国家試験を控えている学生等、受講が難しい学生もいると思いますが、まずは「基礎編」のみでも挑戦していただき、知識を活用する場としてもらいたいと考えています。

（図1）地域人材育成プラットフォーム



3つのプログラムと対象とする学生の例

かごしまキャリア教育プログラム
・地域でのキャリア形成を目指す学生

かごしま地域リサーチ・プログラム
・地域の資源に深くアプローチし、文化や歴史、自然を学びたい学生

かごしまグローバル教育プログラム
・地域をグローバルな視点で考え、異文化や異文化コミュニケーション、海外実地体験に関心のある学生等

「かごしまキャリア教育プログラム」での就業体験

鹿児島商工会議所でのインターンシップ。50年後を見据えた鹿児島のまちづくりプランの提案に向けて、学生6名が話し合っている

「かごしま地域リサーチ・プログラム」でのフィールドワーク
職人の減少に悩む「大島紬」をどのようにPRするかを課題としたフィールドワーク（下記インタビュー参照）。

奄美大島にて世界的に有名な染職人の方に話を聞く学生たち

職人の指導を受けながら泥染めを行う学生（右下）

◆Word：地域人材とは?
世界的な広い視野を持ちながら、地域で活動し、様々な課題を解決していくことができる人材のこと。"Think Globally Act Locally（地球規模で考え、地域で活動せよ）"という言葉があり、「グローバルとローカルは対立するものではなく、両立させるべきもの」と大前教授。

◆Information
地域人材育成プラットフォーム
https://www.kagoshima-u.ac.jp/platform/

interview 修了した学生に話を聞きました。

かごしま地域リサーチ・プログラムを受講

学んだことを卒業論文や就職活動、社会に出てからも活かしていきたい

森 蓮さん
法文学部法経社会学科4年

まず1年生の頃に地域リサーチスタートアップという科目を受講し、鹿児島県内の伝統工芸品について学びました。そして、3年生の時に地元・奄美大島の伝統工芸品である大島紬について学びたいと思い、夏に奄美大島で調査を行いました。調査の中で多くの職人の方や小売店の方と話す機会もあり、自分自身が今まで目を向けていなかった地域の魅力や伝統・文化の魅力、課題に気づくことができたと思います。

また、多くの先生や職員の方にもサポートしてもらいながら、自分自身の興味関心を深めることができることも本プログラムの魅力であり、僕自身も学んだことを卒業論文や就職活動、社会に出てからも活かしていきたいと思います。

かごしまキャリア教育プログラムを受講

自分を変える手立てに。

安永 菜々子さん
法文学部人文学科4年

入学時のオリエンテーションで地域人材育成プラットフォームのかごしまキャリア教育プログラムを知りました。県内就職を視野に入れていた私にとって魅力的な内容であったため、参加を決めました。プログラムでは、県内企業の方による講義を通して企業の現状や動向を知ることができ、自身の就職活動においてもこれらの知識が役立ちました。

また、本プログラムは座学だけでなく、課題解決型インターンシップがあります。地域企業の抱える課題に学生の目線で取り組む長期インターンシップであるため、標準的なものよりはるかに濃い内容でした。苦戦することも多々ありましたが、終えた時の達成感は非常に大きく、この経験から能動的な姿勢が養われ精神的に大きく成長できました。

修了証を手にした今振り返ると、本プログラムは自分を変える手立てになったと強く感じます。

大学の研究室ってどんなところ? 研究室から

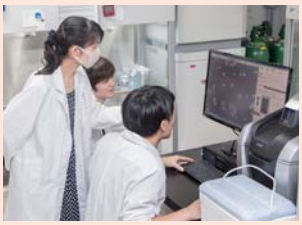
食品分子機能学研究室

指導教員：侯 徳興教授・坂尾 こず枝 助教（農学部食料生命科学科）
所属学生（2020年度）：博士5名、修士2年4名、修士1年3名、学部4年6名（計18名）

お腹の調子を整える、体脂肪を減らす、肝臓の機能を維持する…これらは食品の「機能性」を表す言葉で、私たちにもなじみ深いものです。この機能性を解析し、科学的に評価する研究室が農学部にあります。
学生はどのような研究を行っているのか、坂尾 こず枝助教に伺いました。

食品に含まれる機能性成分（※）の健康への寄与について、科学的根拠を提示するための基礎的な研究を行っています。食品から抽出した機能性成分の種類や含有量を調査する学生もいれば、動物の腸内フローラ（腸内細菌叢）の分布の変化から機能性成分の効果を解析する学生もいます。または機能性成分のがん予防効果を、培養細胞を用いて評価をする学生もおり、研究テーマはバラエティ豊かで網羅的なものとなっています。学生の研究テーマは全員異なるので、責任感と同時に「この研究は、自分がいちばんよく知っている」という自信を持ってもらうようにもしています。

※機能性成分…ブルーベリーに含まれる「アントシアニン」、玉ねぎに含まれる「ケルセチン」、お茶に含まれる「カテキン」等がある。



機能性成分のがん予防効果の解析風景

試験管レベルから遺伝子レベルまでを"ワンフロア"で。国際色豊かな研究室

当研究室の特徴は、試験管レベルから動物・細胞・遺伝子レベルまで、すべての実験や解析が研究室内で行えることです。多くの実験機器の設置や手法の確立がなされており、学生自身の探求心に合わせ、"待ったなし"で思う存分研究ができる環境が揃っています。また、継続的に留学生を受け入れていることも特徴の一つですね。今までに、中国、ベトナム、インドネシア、メキシコやオーストラリアなど10ヵ国以上の留学生が研究室で学んできました。

学部生の多くは修士課程に進学し、修了後は技術を活かして、官公庁の技術職や食品会社の研究開発職に就職するケースが多いです。さらに、一部の学生は博士課程に進学・修了後、大学教員や国立研究機関の研究員として活躍しています。私たちの研究が、健康増進の機能を持つ食品の開発につながっています。食品の「機能性」表示にぜひ注目してみてください。

ヒト細胞培養実験の様子

研究室で学ぶ学生の声

農学部
食料生命科学科4年
浦川 大吾さん

3年生のとき、坂尾先生の講義と実験を受け、理論や実験原理を重んじるスタイルに魅力を感じ、先生の下で学びたいと思いました。実は高校生の時、自分の高校で同研究室の侯先生が食品の機能性成分に関する出前授業をされたこともあり、それも印象に残っていました。

研究室に入って約10ヶ月、一度失敗をしてしまい…新しい細胞をわくわくしながら育て始めたのですが、なぜか生育不良に。1ヶ月半悩み続けて、ようやく必要な栄養素を入れ忘れていたことに気づいて投入すると、細胞の形や生育のスピードが見事に元通り。「あの時講義で学んだのはこれだったのか！」と失敗を通じて自分の中に実体験として入ってきましたね。

卒業後は大学院に進み、さらに研究を続ける予定です。また食の安全下性や食意識を学ぶために留学する予定です。

■HPで本学教員の研究内容等をご紹介!
「研究ー直線」をぜひご覧ください。
https://www.kagoshima-u.ac.jp/researcher/

学部トピックス
9学部のいま

2020年度が始まって半年。学生たちはどのような大学生活を送っていたのでしょうか。今回は、各学部の広報委員の先生方に、4月以降の学生の様子を自由にレポートしてもらいました。授業、実験、ゼミ、合間のひととき……身近な先生だからこそ知っている「学生の姿」をお届けします。

医学部　コロナ禍でやり遂げた病院実習 ―大きな対策と学び―

距離を置き、同じ方向を向いて昼食を取る実習学生

実習は講義と実践を統合し、専門職としての実務力を養う大切な学びの場です。基礎看護学実習は3年次5月に行う初めての長期実習ですが、今年はコロナ禍で延期され、病院・患者への影響を低減する形で7月に行いました。学生には実習の2週間前から健康・行動管理チェック表の記入を義務付け、国内外への旅行、アルバイト、部活の自粛を求めました。

実習は午前・午後組に分け、病棟に行く学生、更衣室や教室を利用する学生の人数と時間を制限し、消毒、換気も徹底するなど、厳密な管理体制で3密防止対策を行いました。また、病院でのコロナ感染を危惧する学生には代替の学内演習を準備しました。患者様には、家族に会うのもままならない中、快く学生を受け入れていただき、学生はそれに応えて懸命に健康管理と実習に取り組み、全員が実習を履修し、単位を修得しました。（記：保健学科看護学専攻基幹看護学講座教授　八代 利香）

法文学部　屋久島調査実習で学生が成長！ 学生同士の絆も深まる

屋久島町の平内（ひらうち）集落の民具倉庫で民具を手に楽しむ学生

法文学部法経社会学科の小栗ゼミでは、毎年夏休みに地域調査実習を実施しています。遠隔授業が続いた今年は実現が懸念されましたが、8月末に3泊4日で屋久島に赴きました。

今年のテーマは、屋久島の「開発（人間活動）と自然保護の両立」を目指す地域づくりと住民の関わりです。ゼミ生11名は、オンラインで事前学習に臨み、現地では、感染症対策に十分な配慮を行った上で、屋久島の自然観察や文化体験を楽しみ、行政機関や文化施設、集落などを訪問し、関係者23名に聞取り調査を行いました。3年の濱川 真里江さんは、「集落ごとに文化が違い、自然を活用した生活が営まれていることが何よりも印象的で、私の研究関心である「地域を捨てさせない教育」が、今回の体験でより具体化した」と話しました。ハードな実習を乗り越え、今年度初対面だったゼミ生同士の絆も深まりました。（記：法経社会学科准教授　小栗 有子）

歯学部　医療系学生であることを自覚しつつ

2～6年生には5月中旬までほぼ全面的に遠隔で授業を実施していましたが、それ以降は感染防止措置を講じつつ対面授業に戻っています。1年生には5月下旬以降、共通教育の遠隔授業と歯学部専門科目の対面授業を並行して実施しています。

写真は4月に実施した新入生オリエンテーションの様子で、例年と異なり遠隔授業を受けるために必要なウェブ会議システムに関する講習を行いました。遠隔授業には対面授業に無い利点があり学生には概ね好評でしたが、幾つかある問題点の解決が今後の課題です。

新入生オリエンテーションでは遠隔授業の講習を実施

サークル活動も再開されていますが、全日本歯科学生総合体育大会等の各種イベントが中止されたこと、食事会や合宿で懇親を深められないこと等から、悔しい思いを抱いている学生さんも少なからずいる様です。一日も早いCOVID-19の終息を祈ります。

（記：歯学部教授（1年生担任）　齋藤 充）

教育学部　卒業アルバム用の写真撮影で一息

コロナ禍において遠隔授業が導入されたほか、「密」になるような状況を避けるよう留意するなど、学生も教員も普段とは異なる状況にあります。少し気が滅入ってくるところですが、そんな気持ちを癒してくれたのは、卒業アルバム用の写真撮影という機会でした。

教育学部心理学科の稲垣ゼミでは、授業やゼミの時間の合間を縫って4名のゼミ生（写真の左から吉村 竣斗さん、末永 美郁さん、寺師 亜衣さん、村谷 薫さん）が集まり、外に出て写真撮影を行いました。こうした状況下なのでマスクを外しての撮影は必要最小限に留めざるを得ませんでしたが、日射しが眩しすぎるほどの晴天にも恵まれ、大事な思い出のワンシーンを残すことができました。コロナの影響を忘れさせてくれるひとときになりました。

写真撮影の様子。鹿児島の日射しは強い！

（記：心理学科講師　稲垣 勉）

工学部　新入生の大学生活（不安から安心・後期への期待へ）

3密回避のため、2020年度前期は実験・実習を除くほとんどの科目が遠隔授業、サークル等も制約下での活動となりました。そのため、新入生はオリエンテーションこそ距離を保っての対面実施でしたが、それ以外は他の学生との接点がなく、交友関係を広げられずに不安だったと思います。そのような中、工学部では、指導教員（アドバイザー）が4・5月の早い段階に学生の履修や生活面の指導・助言をメールやZoomで行い、また年齢の近い大学院生（学生相談員）がLINEやZoomで適宜相談を受けるなど、丁寧なケアを実施しました。学生からも良かったとの声が多くありました。

新入生向けオリエンテーションの様子

後期は、工学部では基本的に距離を保っての対面授業、全学的にも交流機会を増やす目的のスクーリングが計画されていますので、特に1年生は交友関係の構築に期待を膨らませているようです。

（記：先進工学科教授　川畑 秋馬）

理学部　3密避けつつ、めざせ科学者!!

蒸し暑い中、実験に集中する学生たち

コロナ禍の中、理学部生命化学科3年生は、前期の月・火・木の午後、必修の4つの学生実験（物理化学実験、有機化学実験、生化学実験、情報生理学実験）に奮闘しています。

今回、「有機化学実験」の様子をモニターしました。この実験では、薬品等の付着を避けるため、実験中は白衣と防護眼鏡を必ず着用していますが、今年はコロナ感染対策として、マスク着用、換気、そして約1時間おきの休憩（手洗い）も義務付けました。更に、50名の受講生を3つに分割して各グループ17名にすることで学生同士が隣り合ったり、向かい合ったりするのを避け、3密が生じないように配慮しました。蒸し暑くて、防護眼鏡が曇ったり、汗が目に入ったりしながらも、学生全員が真面目に実験に取り組む姿は、とっても輝いていますよ。

（記：生命化学科（理学科化学プログラム）准教授　濵田 季之）

農学部　農学は実学。コロナ禍でも実習・実験を大切に

新型コロナ感染症対策として、学生の安全と学修機会確保のため、2020年度前期は遠隔授業でスタートしました。Zoomによるリアルタイム授業や録画教材によるオンデマンド授業、講義資料による学習により、学生は自宅等で受講しました。特に1年生に対しては、チューター教員による相談機会を増やし、オンラインでの学科懇談会、SNSによる情報交換等を行っています。

学生の反応は、「自分の時間を有効に使えた」、「対面授業よりも集中して受講できた」、「録画授業は繰り返し復習ができた」という評価の一方で、「友人ができず不安」、「課題の量が多い」、「ネット環境が不安定」といった声もありました。

農学は実学ですので、実習や実験が大切です。6月中旬から一部の対面授業が再開されました。3密を回避しつつ行われている農場実習の風景をご紹介します。（記：広報委員長・農林環境科学科教授　寺岡 行雄）

「暖地農業実習」で、ライチの実生苗を鉢に植える作業を前に、植え方の説明を受ける学生たち（食料生命科学科3・4年生）。屋外実習も3密を回避して実施

◀next 水産学部・共同獣医学部

Clubs サークル紹介

生物研究会
19名（男子17名、女子2名）

大学祭での生物展示の様子▲

生物が大好きな人達が集まったサークルです。山や川などに行って、様々な生物の観察、採集をしています。夏休みには、奄美大島や屋久島などに合宿に行ったりもします。学祭※では、採集した生物の展示を行っているので興味がある方はぜひ遊びに来てください！

主将：篠﨑 葵さん（理学部3年）

※2020年度の鹿大祭は中止となりました。

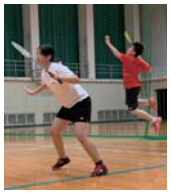
ハーモニカバンド 53名（男子23名、女子30名）

1年間の集大成である定期演奏会と、県内の小中学生と交流する演奏旅行を主な行事として活動しています。ハーモニカ以外にも、ギターやアコーディオン、マリンバやコンガ等多くの楽器を使用します。部員間の仲が良く、音楽にも遊びにも一生懸命な部活です！

広報：肥田 めぐみさん（法文学部3年）

◀定期演奏会の様子

バドミントン部 16名（男子10名、女子6名）



自分達で教え合いながら、楽しく活動しています。学生大会や市民大会に積極的に参加し、着々と力をつけています。男女の仲も非常に良く、休みの日には一緒に遊びに行くなど仲の良さはどこにも負けません。

主将：渡邉 浩輝さん（理学部3年）

練習の様子。体育館にて▲

学部トピックス 9学部のいま

水産学部　水産学部の現況

4月以降、水産学部ではほぼ全ての講義を遠隔で行ってきました。キャンパス内は閑散としています。サークル活動や地域貢献活動もストップし、教員と学生だけではなく学生同士のコミュニケーションも大きく減少しています。しっかり学ぶためにはやはり対面授業を行って欲しいと言う学生の声は強く、教育の質を保証する観点からも、後期からは感染防止に十分配慮しながら、可能な範囲で対面授業を増やしていく予定です。

4年生の就職活動も様変わりし、面接のほとんどが遠隔で行われるようになりました。これまでとは異なる対応が求められています。卒論もフィールド調査が大きく制限されたので、文献研究などを増やすように工夫しています。早くコロナ対策が完成し、正常な教育体制に戻せることを教員も学生も強く願っています。

（記：水産経済学分野教授　佐野 雅昭）

「増養殖学実験」にて、魚類の骨格を観察する様子（水産資源科学分野3年生）。十分なコロナ対策の下、実験を実施

共同獣医学部　参加型臨床実習で診療の技術と知識を身に付けるぞ！

胃の内視鏡検査と獣医内科学的な治療（犬）

共同獣医学部の5･6年生は、獣医学共用試験に合格した後、動物の実際の診療技術を、すべての動物について教員の指導を受けながら参加型臨床実習として学びます。小動物診療センターで犬と猫、大動物診療センターと大隅産業動物診療研修センターで牛、軽種馬診療センターで馬の高度な診療技術を、さらに大学以外で一般的な診療、飼養管理、公務員獣医師としての衛生業務を現場の獣医師から全学生が学びます。このカリキュラムにより、自分が目指す獣医師像を思い描くことができるでしょう。

今年度は新型コロナウイルス感染症への対応のために、学生と飼い主との接触を避けて実施しています。内視鏡検査を経験した6年生の中尾 悠一郎さん（写真右）は、「自分のレベルの低さがわかるので、診療の技術と知識を早く身に付けたい」と話していました。

（記：獣医学科教授　三好 宣彰）

鹿大の主な出来事 2020年4月～2020年9月

EVENTS IN KAGOSHIMA UNIVERSITY

詳細は、大学HPをご参照ください。
https://www.kagoshima-u.ac.jp

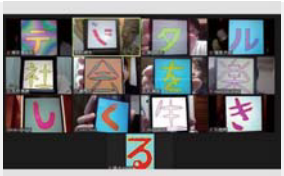
●新型コロナウイルス感染症の治療薬に関する記者発表

6月22日、ヒトレトロウイルス学共同研究センターの馬場 昌範センター長並びに岡本 実佳准教授、外山 政明特任助教の3名からなる研究チームが、新型コロナウイルス感染症に対する治療薬候補となる化合物を同定したこと、また、オンコリスバイオファーマ株式会社（東京）と臨床開発に向けた特許譲渡契約を締結したこと等を記者発表しました。本発表の中で馬場センター長は研究成果や今後の計画について説明し、「COVID-19 に対する新規治療薬の開発につなげたい」と熱意を語りました。

記者発表の様子

●法文学部社会学ゼミで「国際交流ゼミ」を実施

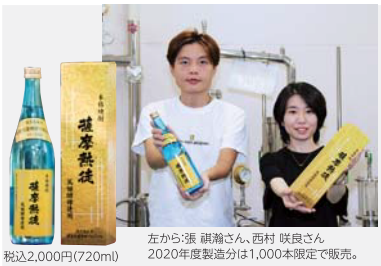
法文学部法経社会学科の社会学ゼミは7月16日、Web会議サービスZoomを活用した国際交流ゼミを開催し、ゼミ生7名が、中国・アメリカ・日本の学生5名をゲストに迎え、交流しました。同ゼミでは、今期、グローバル資本主義の可能性と限界について学んでおり、その学習内容を発展させたものとして実施。Zoomパズルを楽しんだり、小グループでの交流やディスカッションを行った学生からは、「貴重な経験になった」「デジタル社会で自分の能力をどう活かせるのか学べ、有意義だった」等の感想が寄せられました。



Zoomパズルを楽しむ学生たち。デジタルの「シ」が反転し、「いい味出してます」とゲスト参加の学生から感想が。

●薩摩熱徒のデザインを一新！

2018年から販売している大学ブランド焼酎「薩摩熱徒（さつまねっと）」のラベルとパッケージが新しくなりました。デザインしたのは、農学部で焼酎発酵・微生物科学を学ぶ4年の西村 咲良さんと中国人留学生の張 祺瀚さん。薩摩藩の家紋「丸に十字」をモチーフにした模様が並ぶ黄色のラベルが、ブルーの瓶に映える爽やかなデザインです。西村さんは「色々なソフトを駆使し、想いをラベルにするのが難しかったが、開発に携わった焼酎が商品化されるのはすごく嬉しい」、張さんは「帰国後は日本のお酒文化を広めたい」と喜びや抱負を語りました。本学インフォメーションセンターで取り扱っています。



税込2,000円（720ml）

左から：張 祺瀚さん、西村 咲良さん
2020年度製造分は1,000本限定で販売。

★薩摩熱徒とは
2018年、本学と山口大学の薩長同盟酒プロジェクトにより誕生した焼酎。「女性でもワイン感覚で楽しめる焼酎」という学生の意向を反映したフルーティな味わいが特徴。

●教育学部・教育学研究科の学生が各賞を受賞

第48回鹿児島陶芸展で、創作部門入選作品73点の中から、教育学部美術専修4年の亀川 由季さんが優秀賞を受賞しました。また教育学研究科1年の藤田 菜々恵さん、教育学部美術専修4年の塩満 輝さんと本溜 奈々加さんがそれぞれ特選を受賞しました。

「登」（優秀賞）
亀川 由季さん

第38回南日本女流美術展では、教育学部美術専修3年の山下 夢乃さんが特選を、同じく美術専修3年の前門 琴音さんが奨励賞を受賞しました。

「淘汰」（特選）
山下 夢乃さん

INFORMATION

●情報発信中！
鹿児島大学公式HP
お知らせ、学生・教職員の活躍、広報誌のバックナンバー等

●ドローンで空撮
You Tube鹿大チャンネル
貴重な空撮映像を楽しめる"One Minute"公開中

●日常をお届け
広報センターInstagram
キャンパス内の風景や取材時に撮影した写真を公開中

※本紙の送付にあたっては、学生が学務Webシステムに登録している保証人様の住所データを利用しています。住所変更や送り先の変更をご希望の場合は、学生に変更手続きを行うようご連絡ください。住所を含む学生情報の変更は、学生本人のみ行うことができます。